

山梨県と大韓民国忠清北道 ～20年の交流の軌跡とこれから～

山梨県観光部国際交流課課長補佐 古谷 健一郎

忠清北道との交流

忠清北道は、人口158万人、ソウルから南東約140kmに位置し、俗離山や月岳山など国立公園に囲まれ、本県とよく似た自然景観の美しい地域です。近年では、ITやバイオを重点産業とし、国内外の先端企業誘致を強力に進めています。交通インフラも急速に充実してきており、清州国際空港をはじめ、高速鉄道や高速道路網が整備され、首都圏には1時間、韓国全土を3時間以内でカバーする物流拠点として成長しています。農業分野ではリンゴやブドウ、モモなどの果樹栽培が盛んです。

山梨県と忠清北道の交流は、1965年の日韓関係正常化の後、ライオンズクラブなど民間レベルの交流により、その端緒が開かれました。その後、徐々に交流の輪が広がり、1986年の山梨県日韓親善協会と忠清北道韓日親善協会、1991年の甲府商工会議所と清州商工会議所の姉妹締結を経て、1992年3月27日に両県道の姉妹締結が行われ、以来、行政、経済、文化、スポーツ、福祉など、さまざまな分野で幅広く交流が継続されています。

現在、県レベルの定期交流事業としては、職員や留学生の相互派遣、高校生スポーツ交流を行っており、これに加えて、今年度は20周年記念



障害者スポーツ交流（ボーリング 於 忠清北道）

事業として、公式訪問団の相互派遣と、初めての試みとして障害者スポーツ交流団の相互訪問を実施したところです。

筆者自身も、1996年度に派遣職員として忠清北道庁で勤務し、その後、5周年、15周年、20周年記念事業に携わってきました。日韓の歴史問題は、時には地域間交流にも大きな影響を及ぼすことがあります。20年にわたる交流の実績と相互理解があったからこそ、これまでも困難を乗り越えてくることができたと信じています。

日韓交流の先駆け「浅川巧」

韓国を愛し、韓国人から愛された日本人として、日韓両国の教科書に掲載された人物に本県出身の浅川巧あさかわたくみがいます。忠清北道との直接的な関係はありませんが、日韓交流という切り口から少し触れてみたいと思います。

浅川巧は、1914年、朝鮮半島に渡り、林業技師として荒廃した山林の復興に力を尽くすとともに、当時は顧みられなかった白磁のりたかなど民衆の工芸に魅入られ、朝鮮陶磁の神様と呼ばれた兄の伯教やなぎむねよしや後の民芸運動の創始者として知られる柳宗悦とともに、ソウルの景福宮内に朝鮮民族美術館を設立。また、「朝鮮の膳」「朝鮮陶磁名考」などの著作を刊行し、文化交流に大きな足跡を残しました。植民地支配という厳しい時代にあって、朝鮮語を話し、朝鮮文化を愛し、周囲の人々に敬愛されながら、1931年、道半ばにして40歳の若さで亡くなりました。ソウル郊外の忘憂里マンウリの墓所には「韓国の山と民芸を愛し、韓国人の心の中に生きた日本人、ここ韓国の土となる」とハンゲルで刻まれた石碑が建立され、その遺徳しのが偲しのべられます。

この浅川巧を主人公とした映画「道～白磁の人～」が、巧を慕う日韓の関係者の協力のもと、紆余曲折を経ながらも、7年の歳月をかけて、2,500名を超える方々のご寄付や、国、山梨県、北杜市、



映画「道～白磁の人～」韓国公開ポスター

韓国映画振興委員会などの支援を受けて製作され、6月に全国公開されました。韓国でも7月にソウルや釜山などの主要都市24か所の劇場で上映されたところです。

映画の中で、巧が同僚のイ・チョンリムに、「日本人と朝鮮人がわかりあえるなんて見果てぬ夢だろうか」と問いかけるシーンがあり、チョンリムは「夢であったとしても、それに向かって行動することに意味があるのではないですか」と答えています。

時代にほんろう翻弄されながらも、立ち向かって行こうとする姿勢は、これからの時代を生きていく私たちにとっても必要な心構えかもしれません。

山梨県忠清北道20周年交流事業 および韓国トップセールス

本年、10月10日～12日にかけて、忠清北道で開催された20周年記念行事に、横内知事をはじめとする公式訪問団が参加し、忠清北道優秀市場博覧会に本県の広報ブースを出展するとともに、11日



忠清北道優秀市場博覧会・オープニングテープカット（山梨県広報ブースにて）

の夜には、野外ステージで、映画「道～白磁の人～」の上映会を実施しました。また、和食とワイン人気が進透してきている

韓国市場をターゲットに、清州市内で、メディアや流通事業者、和食レストラン、ワイン愛好家などを対象に、本県の事業者とともに「山梨県産ワイン・日本酒セミナー」を開催。ソウルでは、ロッテホテルと連携し、本県産の甲州ワインに合うメニューを開発し、その食材には忠清北道産のものを使うという新たな趣向で、「富士の国やまなし魅力説明会」「観光物産商談会」「レストラン桃山－山梨フェア」を開催しました。実は、ロッテホテルさんとのご縁は、映画の広報を行う過程で生まれたもので、天国にいる浅川巧さんには感謝しないといけません。

さらに、11月9日～11日にかけて、忠清北道のイ・シジョン知事一行が本県を訪問し、県民の日の記念行事や忠清北道の広報ブース開幕式に出席するとともに、甲府市内で、化粧品事業者や美容関係者などを対象に、忠清北道で開催される「2013オンソク化粧品・ビューティー世界博覧会」の広報説明会を実施予定です。

今回、20周年事業の実施に当たっては、記念行事の実施にとどまらず、お互いの広報活動をしっかりとサポートしあう中で、信頼関係を深めることができました。今後は、両地域のネットワークを活かしながら、相互のブランド力を高めるパートナーとして、さらなる協力関係を築いていくことが重要な課題と考えています。

終わりに、本事業が自治体国際化協会の「地域国際化施策支援特別対策事業」「海外経済活動支援特別対策事業」に採択され、助成をいただきましたことに対し、この場を借りて厚くお礼申し上げます。